

第48回 容量市場の在り方等に関する検討会 議事録

1. 開催状況

日時：2023年6月30日（金） 15:30～17:00

場所：Web会議

出席者：

秋池 玲子 座長（ボストンコンサルティンググループ マネージング・ディレクター & シニア・パートナー）
秋元 圭吾 副座長（公益財団法人地球環境産業技術研究機構 システム研究グループリーダー・主席研究員）
安念 潤司 委員（中央大学法科大学院 教授）
小宮山 涼一 委員（東京大学大学院工学系研究科 教授）
林 泰弘 委員（早稲田大学大学院先進理工学研究科 教授）
松平 定之 委員（西村あさひ法律事務所 パートナー）
松村 敏弘 委員（東京大学 社会科学研究所 教授）
圓尾 雅則 委員（S M B C日興証券株式会社 マネージング・ディレクター）
紀ノ岡 幸次 オブザーバー（関西電力株式会社 エネルギー・環境企画室 企画担当部長）
小鶴 慎吾 オブザーバー（株式会社エネット 経営企画部長）
佐々木 邦昭 オブザーバー（イーレックス株式会社 経営企画部 副部長）
高垣 恵孝 オブザーバー（送配電網協議会 ネットワーク企画部長）
鳥居 敦 オブザーバー（東京ガス株式会社 電力事業部 担当部長）
森 正樹 オブザーバー（電源開発株式会社 経営企画部 部長代理）
浅井 大輔 オブザーバー代理（東京電力パワーグリッド株式会社 系統運用部 担当部長）

欠席者：

梅本 昌弘 オブザーバー（伊藤忠エネクス株式会社 電力・ユーティリティ部門 電力需給部長）

議題：

- （1）2023年度メインオークション募集要綱（案）の意見募集の開始について
- （2）2023年度メインオークションにおける需要曲線の原案について
- （3）2023年度長期脱炭素電源オークション募集要綱（案）の意見募集の開始について
- （4）需給状況に応じた供給力提供に関する周知方法と、発動指令電源のベースライン算定の取扱いについて

資料：

【資料1】 議事次第

【資料2】 委員名簿

【資料3】 2023年度メインオークション募集要綱（案）の意見募集の開始について

【資料4】 2023年度メインオークションにおける需要曲線の原案について

【資料5】 2023年度長期脱炭素電源オークション募集要綱（案）の意見募集の開始について

【資料6】 需給状況に応じた供給力提供に関する周知方法と、発動指令電源のベースライン算定の取扱いについて

- 【別紙1】 2023年度メインオークション募集要綱（案）
- 【別紙2】 容量確保契約約款（案）
- 【別紙3】 需要曲線作成要領（案）
- 【別紙4】 2023年度長期脱炭素電源オークション募集要綱（案）
- 【別紙5】 長期脱炭素電源オークション容量確保契約約款（案）

2. 議事

（1）2023年度メインオークション募集要綱（案）の意見募集の開始について

（2）2023年度メインオークションにおける需要曲線の原案について

- 事務局より、資料3に沿って、「2023年度メインオークション募集要綱（案）の意見募集の開始について」および資料4に沿って、「2023年度メインオークションにおける需要曲線の原案について」の説明が行われた。

[主な議論]

（松平委員）

ご説明いただき感謝する。資料4、15ページ、約定処理で加算する供給力の中の容量市場外の見込み供給力控除量ということで、今回120万kWを見込むということ。これは、これまでの2回のオークションでこういったものがあるよだということ、経験的に出された数字だと理解している。ただ、これが具体的にどういう電源なのかということは、情報としてきちんと把握しておいたほうが良いと考える。おそらく、一つの推定としては、容量市場におけるペナルティ等のリスクを追いながら、果たして4年後に供給できるかどうか、必ずしも明確でないという理解の下に使われている電源ということで、場合によっては需要者のほうで設置している電源等、自分の工場稼働のために設置している電源等も含まれているのではないかと想像している。こういったものが、本当に4年後も期待できる供給力なのかということは、よくウオッチしていく必要があると考える。今後、そのような電源の中に、石炭火力等が含まれている場合には、今後も使い続けられるものなのかという疑問もあるため、特に追加オークションを実施するか否かという断面のところでは、改めて、そのようなところから出されている供給計画等もよく確認をした上で、追加オークションの実施の可否を確認していく必要があると考えている。

（事務局）

ご意見感謝する。ご指摘いただいたように、この120万kWという供給力を控除する部分は、今回、国の審議会のほうでこういった形で数字が示されているが、この中身について、具体的にどういう電源なのかは継続して把握していく必要があるかと考えている。また、この値に関しては、今後も固定のものとは認識しておらず、引き続きこれからの容量市場での約定電源、供給計画を都度確認していくものと考えている。

資料3のご説明について、1点申し添えさせていただく。本日ご説明した要綱約款の案について、意見募集開始までに細部の修正等、必要が生じた場合には、反映の上、意見募集を開始させていただくことをご了承いただきたい。

（秋池座長）

では、これにてこちらの議題を終わらせて、次に進ませていただく。今年度のメインオークションについては、本検討会の検討内容も踏まえながら準備を進めてきた。委員やオブザーバーの皆様にはこれまでも様々な観点からご意見をいただき、感謝する。この後は、募集要綱の意見募集を開始し、事業者の皆様のご意見を含め、内容の確認を進めていくことになる。需要曲線の原案については、この後、国の審議会で審議を行い、それを受けて、広域機関において今年度のメインオークションの需要曲線として確定し、公表することとしている。引き続き、事務局の皆様には、募集要綱や需要曲線の公表に

に向けた準備を進めていただくよう、宜しく願います。

(3) 2023年度長期脱炭素電源オークション募集要綱(案)の意見募集の開始について

- 事務局より、資料5に沿って、「2023年度長期脱炭素電源オークション募集要綱(案)の意見募集の開始について」の説明が行われた。

[主な議論]

(秋元委員)

ご説明および丁寧に整理いただき感謝する。説明会のところもそうだが、制度が色々複雑になってきて、容量市場メインオークションと長期脱炭素電源オークションもあるため、事業者のほうでも戸惑う部分が多いかと認識する。資料に記載いただいている通り、丁寧にご対応いただければと考える。業務量が多く、色々大変だが、是非引き続き丁寧にご対応いただきたい。宜しく願います。

(松平委員)

10 ページ、ペナルティのところは、かなり色々悩まれて、こういう設計になっていると推測する。脱炭素というものを目指すオークションであるため、脱炭素の実際の達成率が0%の場合のペナルティというものは、本当はどう考えるべきなのか、色々議論もあろうかとは考えるが、やはり新しい制度であり、特に水素・アンモニアのところは、現状、技術的にもなかなか見通しが十分立っていないところもあるため、各事業者がかなりのリスクを負って、今後の事業を実施していく必要があるということも踏まえた今の設計になっているという理解である。今後、時間の経過により技術的な水準が上がっていったら、脱炭素で混焼率を上げていくという取り組みが、フィージブルな技術と確認され、導入事例も増えてきた段階では、国のほうの議論になるかとは認識しているが、見直されていくと考える。今、この足元では、まずはリスクを負う事業者をしっかり支援していくという形で、こういう仕組みになっていると考えるため、私としてはこれを踏まえた対応ということで支持をしたい。

(小宮山委員)

多岐に渡る内容を、非常に分かり易く要綱のほうにまとめていただき感謝する。概ね賛同させていただく。今回、募集要綱とは少し異なる内容についてのコメントであるが、容量市場メインオークションでは4年先の供給力を確保する一方で、長期脱炭素電源オークションの電源は、一般的に供給力提供開始期限が、その4年よりも大分長い期限となる電源が多いわけであるが、時間が経てば容量市場メインオークションで確保すべき容量にも影響が出て、おそらく容量市場メインオークションの募集要綱にも関係が出てくるかと考えるため、その点も長期的に意識することが大事かと考えている。

(事務局)

ご意見いただき感謝する。秋元委員からいただいた、制度が複雑化しているというところは、引き続き丁寧な説明をしていきたいと考えている。また、松平委員からいただいた、技術の進展状況等を見ながらということも正に仰る通りで、水素・アンモニア等、新技術の発展あるいは脱炭素化の進捗状況等を見ながら、必要に応じて国大で議論がなされるものと認識している。小宮山委員からいただいた、供給力提供開始年度が電源によって異なる中で、メインオークション側の必要量にも影響があるといったところも正にその通りかと認識しており、長期脱炭素電源オークションで確保された電源は、メインオークション、あるいは追加オークションの供給力として事前にカウントされるところがあるため、実際の落札状況等を見ながら、総合的な判断が必要になってくるかと考えており、引き続きの検討事項と認識している。ご確認いただき感謝する。

なお 1 点補足させていただく。メインオークションの募集要綱と同様であるが、長期脱炭素電源オークションにおいても意見募集開始までの間に、更なる確認をした上で、細部の修正が必要な場合には、反映を行って意見募集を実施していきたいと考えている。

(秋池座長)

長期脱炭素電源オークションの募集要綱については、この後、意見募集を開始して、幅広くご意見をいただいて参る。その後、意見募集の内容を踏まえて、今年度のオークションの募集要綱を確定し、公表する。今年度は長期脱炭素電源オークションの初回開催となるため、募集要綱の公表に向けた準備とともに、初めてのオークションを実施する準備や、事業者の皆様の参加を支援する準備、情報発信の開始等、様々な準備を宜しく願います。

(4) 需給状況に応じた供給力提供に関する周知方法と、発動指令電源のベースライン算定の取扱いについて

○ 事務局より、資料 6 に沿って、「需給状況に応じた供給力提供に関する周知方法と、発動指令電源のベースライン算定の取扱いについて」の説明が行われた。

[主な議論]

(松村委員)

今回の議題と直接関係ないことを発言するようで申し訳ないが、11 ページで、「発動指令電源の事業者等より以下のご意見を確認している」との記載がある。今回の議題と直接関係ない意見も含めて記述して下さったことに、とても感謝する。仮に今回の議題と直接関連がなかったとしても、事業者からこういう声が寄せられていることを、各委員が情報として知ることが意義があると考え。このような意見があったことは、今回の議題とは直接関係がなくても、将来の改革のために重要なものである可能性は十分あるので、このように示して下さったことに感謝する。

その上で、今回の議題と直接関係ないものであるものにも拘らず、発言して申し訳ないが、この 3 項目、発動指令電源のみマルチプライスにならないかという意見に関して、容量市場の改革の観点からは傾聴に値する。きちんと頭に入れておくべき非常に前向きな提案であると認識する。発動指令電源の場合には、上限が決まっていたシングルプライスのため、安いほうの札から取っていき、上限にヒットしてしまうと、そこまでしか行けない。上限にヒットした時に同じ価格でずらっと並んでいたとすれば、その中から選ばなければならないという状況になり得る。実際に過去起こったこともあった。その時に、仮にマルチプライスになったとすると、落札したい事業者が 0 円で入れることは基本的になって、自分達がこのぐらいの値段で落としたという価格を入れてくることになる。そうすると、自然体によりコストの低い人から順番に落札していき、上限に到達するところまで落札する格好になり、今のように入札が 0 円で張り付いて、その結果として、必ずそうなるとは言わないが、0 円で入れた人の中には、それは経済合理的にそう入れているわけなのだが、その中でもコストの差があるものにも拘らず、そのようなものと全く無関係に、ある意味でランダムに落札事業者が決まることになり、とても競争力のある発動指令電源であるものにも拘らず、落札できないことが起こり得る。対してマルチプライスにすれば、そのような弊害を除くことができる、または、少なくともかなり軽減することができる。

同じような問題を解消するのは、4 項目の「発動指令電源の応札量を自由にしないで前年度実績に応じた上限枠」というのも、言わば 0 円のところにずらっと並んでそこでというのを防ぐ効果はあると考えるが、4 項目の意見というのは合理的な側面はあるが、とても後ろ向きという側面もある。競争を制限することによって、前年度の実績のある既得権益のある人が新規参入者を追い出す側面もある。事業者からこういう声が出てくるのはもっともだと考えるが、とても後ろ向きな側面、意見と取られる余地も十分ある。これに対して、3 項目の意見はとても前向きな意見で、なおかつ競争力のある DR を組成できる自信のある人にとってはとても有利だが、そうでない高いコストでないと組成できない人にとってはウェルカムではない

提案なので、きっと反発はものすごくあると考えるが、ある意味でとても合理的な提案だと考える。

是非この点は前向きに受け止めて、本当にこのようなことができないのかを、すぐにやるのは難しいと考えるが、この委員会で引き取って、このようなことができないかを是非検討していただきたい。

これの大きなメリットは今言った点だけではなく、シングルプライスで決まるという状況だとすると、例えば 1 万円くらいでシングルプライスが決まるであろうと考えていて、本当は 8 千円くらいであればやりたいとは考えているという時に、仮に 7 千円が均衡価格になったという時には、0 円が入札した、そうでないと落札できないからそう入札したのだが、予想外に均衡価格が低くてこれだとペイしないからというので、最終的にウイズドローしてしまうようなことがあり得る。あるいは本当はやりたくないのだが長期をにらんで残ってくれるかもしれないが、そのような変な行動も出てきかねないと思う。

足元で DR のある意味で落札したけれど離脱が多いのは、これが原因でないのは明らかだが、将来これが原因になり得ることを考えると、マルチプライスオークションに移行すればそのリスクも大きく減らすことになるという意味でも、大きなメリットになる非常に前向きなよい提案だと考える。この点については難しい問題があり、反発もあるということは十分に予想できるが、是非前向きに捉えて将来導入できないかを事務局でも引き取って早期に検討していただければと思う。

（事務局）

非常に将来に向けてご示唆に富んだご意見、感謝する。松村委員ご指摘の通り、今回事業者から聞き取っている内容、また、実効性テスト実績の分析等において、今後も制度運用前は見えてこなかったものが見えてくるということがあるかと考える。また、先程ご説明したように 8%未滿の周知の方法が明確化になる、長期脱炭素電源オークションが出てくる等、状況の変化もこれから出てくるかと考える。まだ、発動指令電源自体の運用は 2024 年度が初回ということであるので、以降そういった中で蓄積されてくるノウハウ、そういったものを受けた事業者の応札行動の変化等についても、常に把握することに努めて、よりよい制度の設定、場合によっては変更ということに関して、検討を続けて参りたいと考える。引き続きご意見、ご示唆のほうを宜しく願います。

（秋池座長）

本日の議論も踏まえて事務局の皆様には需給ひっ迫に関する情報発信の準備について引き続き願います。また、発動指令電源のベースライン算定についても本日の内容を基に準備を進めていただくよう、願います。

以上で本日の議事は全て終了した。

以上